

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 公立高校日本一をめざして ～

- 大阪を代表する公立高等学校として、府民から信頼される学校。
- 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 高い教養と正義感に裏うちされた豊かな人間力
- 課題を乗り越え、最後まで頑張り抜く精神力
- 高い志を持ち、目標に向かって全力を尽くす集中力
- 世界で活躍できるグローバルリーダーとしての資質や能力
- 「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 天高スタンダードを基に、3年間を見通した高い学力の定着に取り組むとともに、中教審答申（H26.12.22）に示された新しい入試制度への対応を研究する。
- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均を平成28年度末には3.50以上をめざす（H26年度は4点満点で3.37）。
 - イ 教科担当、部顧問の連携を密にし、個々の生徒の学習到達度を共有し、補習や講習と部活をスムーズに連動させて学力を向上させる。
 - ウ 文武両道をさらに追求する。学校教育自己診断においても部活動との両立ができていない生徒の割合を向上させ、（平成26年度末66%）平成29年度末には70%以上をめざす。
 - エ 平成31年度入試から、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の成績に加え、『小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学希望理由書や学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料』が大学入学希望者選抜の材料になることに対応し、情報収集と研究を行う。
- (2) 学習指導の充実に取り組む
- ア 天高育成プログラムを基に、各教科ごとに3年間を見通した学力育成プログラムを作成する。
 - イ 本校の生徒実態を踏まえた、学習到達目標の点検を行うとともにさらなる充実に取り組む。
 - ウ 自主教材の更なる充実に推進し、天高オリジナル教材の科目を増やす。
（H26現在は国・世・数・化・英・保体の自主教材ができています）
 - ウ 平成28年度までには電子黒板またはプロジェクターを全教室に導入し、一層の授業改善を行う。
 - エ 授業評価と研究授業、公開授業の充実（教科の枠を超えた授業研究の実施）し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする（平成26年度は4.8回）
 - オ 英語に対する学習意欲を増加させ、平成30年度にはTOEFLiBT 又はTOEFLiBT CHALLENGE 80点以上 5～14人 60点以上 42人以上をめざす。
（平成26年度はTOEFL CHALLENGE 第3回目72人受検 80点以上 2人、60点以上 8人、50点以上 8人）
 - カ 中教審答申（H26.12.22）には、平成31年度以降の入試の多面的な評価の方法として「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価の研究を始める。
- (3) 自学自習の徹底 → 桃陰セミナーの活用（土曜日は学校で自学自習の習慣づけ）
- ア 「文武両道」の推進【勉強と部活動の両立（部加入率95%以上を維持する）】
→【部学習日】の更なる充実（先輩・後輩や同級生が相互教え、切磋琢磨の気風の醸成）
 - イ SSHの成果「課題研究」、「創知」（学校設定教科）や文系生徒の課題研究について探求的学習活動をさらに充実させる
 - ウ 高い志の涵養をはかる。難関大学合格者を増やす。平成28年の大学入試において、東大、京大、医学部医学科の合計100人以上をめざす。
 - エ 部活動や課題研究が、「アクティブラーニング」と総称される「主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していく能動的学修」としてこれまで以上に高く評価されることを踏まえて一層の充実をはかる。

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

（夢・志の育成とともに、豊かな人間性の育成）

(1) グローバルリーダーの育成

- ア SSHやGLHSの取組を発展させ、海外セミナーを充実させる。（海外体験を通して世界を知らしめ、大きな刺激を与える）
平成26年度までに実施した海外研修をさらに充実させ、よりいっそう世界を意識させるとともに英語力の向上をはかる。また同時に生徒のアジア理解も深める。
- イ 育成プログラムに基づきリーダーに必要な素養として豊かな感性と教養を身につけさせる。
- ウ 文武両道のもと、多彩な学校行事を通して心身ともに丈夫で頑強な人材の育成をはかる。
仲間意識（自他を尊重する相互の信頼感・連帯感）の醸成→行事を通して、天高生として自覚と責任ある行動を身につける。
「考えぬく力」、「前に踏み出す力」、「チームで働く力」の涵養を行う。
- エ 科学に秀でた人材の育成をめざし、SSHの重点枠を活用して他府県の優秀な生徒と切磋琢磨させる。（近畿サイエンスデイ開催の定着）

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な問題で登校できなくなる生徒を支援し、不登校状態の生徒を0にする。
- イ 学年連絡会を活性化させ学年団で生徒を支援する体制を構築する。・・・結果として留年する生徒を0にし、入学した生徒が全員卒業できるようにする。
- ウ 平成19年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制整備とインクルーシブ教育推進を行う。

(3) GLHSの事務局校としてその責務を果たすべく京都大学、大阪大学との連携協定に基づき、両大学との連携を強化する。

- ア 京都大学と連携協定に基づくキャンパスガイド等とおして高い志の育成をはかる。
- イ 大阪大学との連携協定に基づく10校発表会等とおして高い志の育成をはかる。

3 中堅、若手教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。
- イ 若手教員に対しても教科指導力、生徒指導力の育成と中堅教員に対しては学校運営の視点を育成していく。
- ウ 予備校等のベテラン教員を招聘し、授業展開に主眼を置いた研修会を開催する。

4 校務の効率化

- ア 平成27年度までにはICTを活用した校務の情報化（イントラネットの有効活用等）により、会議等で使う紙をできるだけ少なくする取組を推進する。
- イ 紙の使用量を20%の削減をめざす。（ざら紙購入費用は約90万円以下をめざす）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者による回答 有効回答数 946/1079 (1年 360・2年 301・3年 285 回収率 88%) 「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見が 85%を超える項目が 23 項目中 16 項目であった。中でも「この学校の部活動は活発である」と評価した保護者は 95%で高い数値となっている。また、「この学校は、他の学校にない特色ある教育に取り組んでいる」の項目には 92%、「学校行事は、子供が積極的に参加できるよう工夫されている」の項目には 91%が肯定的な回答をしており、昨年に引き続き学校教育方針は支持されていると思われる。ただ、「PTA 活動には参加しやすい」の項目の肯定的回答率は 62%と他に比べると低い。学区撤廃により遠方から通学する生徒が増えていることが要因の一つとして挙げられるが、気軽に PTA 活動に参加できるような更なる工夫が必要と思われる。</p> <p>生徒による回答 有効回答数 1059/1079 (1年 354・2年 354・3年 351 回収率 98%) 「部活動に参加している」99%、「学校での友人関係はうまくいっている」95%、その他肯定的な回答率が 85%以上の項目が 38 項目中 20 項目あり、多くの生徒が本校の教育活動に満足していると思われる。ただ、「相談室や保健室に行きやすい」は 58%で他に比べると低い。教育相談を充実していくためにも検討が必要と思われる。</p> <p>教員による回答 66/67 (回収率 99%) 昨年度より 36 の項目において肯定的な回答が増加している。中でも項目 21 「校長は自らの教育理念や学校経営の考え方を明らかにし、リーダーシップが発揮されている。」は 95%で教員と管理職や教員相互の意思疎通が良くなっている表れであると思われる。他にも、肯定的回答が 20%以上増加している項目が 5 項目あり教員間の意思疎通が良い方向に向かっていると思われる。</p>	<p>第 1 回(6/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルリーダー育成に関して、英語に限定せず国際コミュニケーション力が求められる。これは全教科に関連した問題である。また、自国や自校、地域的特色などを知ることで、自分の中に芯を持って国際社会で活躍してもらいたい。 ・放課後の時間活用に関して部活動が縮小されないようにしてもらいたい。また、部活動やSSH等が生徒や先生の負担にならないように外部の力を活用できないか。 ・学習面に課題の多い生徒や障がいを持つ生徒への対応は、システム外の配慮も必要になってくるのではないか。また、生徒が多様な人間と関わる中でこそ広い視野が養われていくのではないか。 ・来年度から文理学科のみになるが数値の先走りによる批判も考えられる。保護者の方への手厚い進路指導などの理解を得る機会を活用してほしい。「チーム天王寺」として、先生方の連携を大事に、現状より一歩先を意識した学校を目指して欲しい。 <p>第 2 回(11/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業のあり方について、学校に行く機会が増えることはよいことであり、桃陰セミナーや高体連の試合がある日の対応など、引き続きお願いしたい。 ・忙しい学校なため、生徒のゆとりが少なくなってきたように思える。前回にも出てきたが、放課後は補習に時間を取りすぎず、生徒に時間を与えてほしい。また、困難な課題を持っている生徒に対してのフォローの体制について、ピアサポートなども使って対応をお願いしたい。 ・教科間での連携について、数学で習っていない内容を理科で行うこともあると思うため、しっかりと連携をとってほしい。 ・文理学科のみになるため、内容・運営などこれまでと変化することがあると思うが、どう変化したかを見るために何か評価できるものがあるとよい。 <p>第 3 回(1/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習への意識付けに関する取り組みが活発化し、生徒の人権意識も高まっているので、今後も継続して活動してもらいたい。また、リーダー育成においては障がい者に関わるという視点や合理的配慮についても重要視していかなければならない。 ・学区改変によって大阪府下一円から生徒が来ることによって、生徒・保護者ともに気質が変化している。通学距離・時間が増加した事で登下校中のトラブルなどが増えないか懸念される。また、距離が遠くなっても保護者との関わりを密にして欲しい。 ・一年生を中心にアクティブラーニングに取り組む授業も増加しており、今後の入試改革などにも対応できる生徒を育てている。従来の教育活動ともバランスを取りながら、実施して欲しい。 ・土曜授業に関しては効果が見込める反面、生徒・教職員ともに疲労感も見られる。教職員間で検討を重ねることでスムーズに実施できるよう図られたい。 ・新学年から文理学科のみになるが、その質を維持していくためにも教員の確保が重要な案件になってくる。特に中堅教員の確保が重要である。

府立天王寺高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)天高スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。中教審答申に示された新しい入試制度を研究する。	(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく イ・天高オリジナル教材作成 ウ・天高3年間を見通した学力育成プログラムの内容の充実を図る エ・学習到達低位の生徒への組織的な対応 オ・土曜日の活用を研究し実施する。 カ・新しい入試制度に関する情報収集を行う。	(1) ア・天高スタンダードの改訂 イ・天高オリジナル教材の改良または更新 ウ・3年間を見通した学力育成プログラムの改良 エ・補習、講習の充実 指名補講として1科目の補習の回数を平均20回以上実施する。 オ・3年生対象の進学講習または土曜授業の充実。 カ・外部の会議等で得た情報を職員会議で共有する。新しい入試に関する研修に参加する。(1回以上)	(1) ア・教科運営委員会において天高スタンダードを点検し一部改訂した。(○) イ・オリジナル教材については英語科の教材(Ten-Tan)を改訂するとともに既存の教材を更新した。(○) ウ・学力育成プログラムについては英語科においてTOEFLを文理学科1・2年生の授業に導入するなど一部の見直しを図った。(○) エ・英語・数学・国語の指名補講は定期考査ごとに成績下位者に対して行い平均22.3回の補講を実施した。(◎) オ・3年生対象の進学講習等を5教科平均15.8回実施した。また、土曜日に授業を年間7回実施し学力の充実を図った。(◎) カ・「学校教育に役立つフレームワーク研修」 ベネッセホールディングス協力 本校職員進路研修会 ・「京大特色入試説明会」報告会 (◎)
	(2)授業改善の取組を行い授業満足度を向上させる。	(2) ア・「一方的な授業形態を改め、双方向の授業」を今まで以上に推奨し推進する 第2学年の全教室にプロジェクターが設置されたので、プロジェクターを活用する授業の推進を図る。 イ・授業公開週間(前期と後期の実施)→見学回数5回以上(全職員) ウ・授業力向上講座の実施(外部講師による) エ・大阪府内外の先進的取組の視察や授業見学などによる教科指導法の研究実施 オ・英語教育の見直しを行う。 カ・多面的な評価の方法を研究する。	(2) ア・授業満足度の平均が3.40を上回る。(H26年度、平均3.37) イ・相互の授業見学5回以上 ウ・外部講師による授業力向上講座のべ5回以上 エ・他府県等の視察3か所以上 オ・TOEFL iBT及びTOEFL iBTチャレンジのスコア50点以上の生徒を25人以上育成する。(H26は18人) カ・多面的な評価に関する研修に参加する。(1回以上)	(2) ア・授業満足度の平均が3.44であった。目標を達成し高い水準を維持した(86.0%) (◎) (※満足度の満点は4.00) イ・相互の授業見学の平均5.7回 (◎) ウ・外部講師による授業力向上講座8回実施 (◎) (駿台Super Teacherによる難関大学への指導法他) エ・他府県等の視察 (○) 第9回全日本高校模擬国連大会(東京)視察 愛知県立旭丘高等学校SGH事業報告会参加 兵庫県立長田高等学校エンバロメントプログラム視察 オ・スコア50点以上の生徒135名中44名 (◎) カ・「パフォーマンス・オセティック評価とポートフォリオ評価」(◎) 「グローバル時代の人材育成 府立学校校長研修」 いずれも カリフォルニア大学當作靖彦教授
	(3)自学自習の態度を養成し、意欲的に学習する姿勢の涵養。	(3) ア・桃陰セミナー、部学習日を充実させる(土曜日を活用した自習活動)。土曜日の半日を「部学習日」として部単位で自学自習を継続し推奨する。(同時に先輩・後輩や同級生が相互に教え合うことによる切磋琢磨の気風の醸成をめざす) イ・全学年、夏期休業中に勉強合宿を実施し、さらなる学習意欲を増加させるとともに自己の将来を展望させる。 ウ・高い志の涵養。 エ・部活動、課題研究、科学オリンピック等の活動の評価方法を研究する。	(3) ア・桃陰セミナー参加者数の維持。1日平均380名以上(H26年度1日平均383名)を維持する。 ・部学習日の参加者数の総計1300名以上をめざす。(土曜日が4割減のため) イ・全学年の勉強合宿を開催し参加者H26年度以上をめざす。 H26 1年208名 2年176名 3年189名 ウ・難関大学及び医学部等への合格者数の合計が前年度を上回る。(東大、京大、医学部医学科の合計100以上 H25;67人 H26;71人) 京大の受験者がH26を上回る(H26は90名)※現役 エ・GUに指定された13大学の入試改革に関する情報等から「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」の評価方法を研究し、職員会議等で共有する。	(3) ア・土曜授業を導入したことによって、桃陰セミナー参加者数1日平均289名となった。(○) ・部学習日参加者は総計1162名であった。(○) イ・勉強合宿は全ての学年で昨年より参加者が多くなった。(○) 1年 南港 Hアカデミア(211名) 2年 南港 Hアカデミア(190名) 3年 京都 然林坊 (203名) ウ・東大3名・京大57名 ・医学部医学科24名・合計84名 ・京大受験者は78名であった。(◎) エ・「学校教育に役立つフレームワーク研修」 ベネッセホールディングス協力 本校職員進路研修会 ・「京大特色入試説明会」報告会 (◎)

府立天王寺高等学校

<p>2 グローバル社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>(1) グローバルリーダーの育成をめざしそれにふさわしい素養を身につけさせる。</p> <p>(2) 生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p> <p>(3) SSH や GLHS の充実、発展に取り組む</p>	<p>(1) ア・グローバル人材育成の取組を行う。文系の課題研究にグローバルな社会問題に関する研究を実施する。 イ・天高アカデメイア（外部講師講演会）の実施 ウ・グローバルな視点を取り入れた内容の講演の実施 （外国人の研究者や留学生などによる英語による講演や発表） エ・English Camp の実施と定着 オ・生徒のアジア理解を促進する。</p> <p>(2) ア・多彩な行事、部活動を通して、仲間意識、連帯感の醸成及び互いに助け合う気持ちを醸成するとともに、強い精神力と協調性を育む。（チーム天王寺の定着） イ・教育相談委員会を充実させる。（人権委員会、保健部、学年団が連携して生徒の状況把握と積極的な指導を実施） ウ・教育センターの適応指導教室を積極的に活用する。 エ・支援教育コーディネーターを中心に、生徒の支援方法を研究し、インクルーシブ教育を推進する。</p> <p>(3) ア・英語教育の充実をめざし、土曜日等を活用したTOEFL講座を開講する。（希望者） イ・京都大学、大阪大学との連携協定に基づき両大学とあらたな連携を行う。 ウ・海外の大学を活用した海外セミナーを充実させる。 エ・近畿サイエンスデイ（大阪府以外の公立トップ高等学校との研究発表）を充実する。 オ・海外の高校との交流を増やす。（H26 韓国 慶南女子高校、オーストラリアのホーランドパーク校来校） 課題研究発表の機会として双方の生徒の研究意欲の増進につなげる。 カ・MOOCs の授業による英語力の向上 キ・科学オリンピック参加生徒を増やす。</p>	<p>(1) ア・グローバルな社会課題に関する論文を 10 本以上作成する。（文系の課題研究） イ・天高アカデメイアを年 10 回以上実施（H26 年度 12 回実施）する。 ・天高アカデメイアの満足度の調査と 80% 以上の満足度を維持する。 ウ・英語による講演会を 3 回以上実施する。 エ・阪大の留学生を活用した English Camp の実施。 オ・韓国慶南女子との交流など、アジア理解促進の機会を設ける。（年 1 回以上）</p> <p>(2) ア・部活入部率の維持（95%） ・遅刻生徒を 2 割減少させる。（H26 2024 人） イ・欠席がちな生徒の早期発見と把握及びケアにより長期欠席生徒を 6 名以下に抑える（H26 は 7 名） ウ・長期欠席者を除き全員を進級卒業させる。 エ・支援教育関連の研修に参加する。（年 3 回以上）</p> <p>(3) ア・土曜日等の TOEFL 講座の参加人数が 60 名以上をめざす。 イ・京都大学、大阪大学との新たな連携事業の実施。（京大や阪大主催の講座への参加等） 京大；数学の森、グローバルキャンプ等 ウ・新たな内容の海外セミナーを実施する。（カリフォルニア大学等） エ・参加者数の増加、発表数が H26 を上回る。（H26 は金沢泉丘、藤島、膳所、奈良、神戸、天王寺、北野、三国丘が発表。） オ・海外の高校等との交流の機会の増加。 カ・2 年生の各部屋に設置したプロジェクターの有効利用。希望者対象に 3 回以上実施。 キ・科学オリンピック出場者数の計が 150 人以上をめざす。 H24 62 名 内、受賞 1 H25 110 名 内、受賞 2 H26 141 名 内、受賞 2</p>	<p>(1) ア・文系課題研究 32 本のうちグローバルな社会課題に関する論文を 10 本作成し達成できた。（◎） イ・天高アカデメイアを 13 回実施した。（◎） ・天高アカデメイアの満足度 84% で達成した。（○） ウ・英語による講演会は 4 回実施した。（◎） ・マラリアの免疫反応 阪大 Cevayir Coban 教授 ・What is Pain? And why in English? 阪大中江文特任准教授 ・EU シンポジウムにおいて英語での講演 ・緩まないネジとスウェーデン/ ハートロック工業(株) エ・阪大の留学生を活用した English day を実施した。参加生徒は 33 名、留学生は 18 名で実施。（○） オ・1 年人権講演会で本校校長が「日台関係から異文化共生を考える」を実施。 ・生徒 4 名教員 2 名が台湾の台北市立第一女子高級中学および国立武陵高級中学を訪問し学校間交流を依頼。（◎） 韓国慶南女子交流は相手の都合で本年度は中止。</p> <p>(2) ア・部活入部率は統計上 99% となった。（◎） ・遅刻生徒を約 1.3 割減少させた。（▲270 人）（◎） （H27 1754 人） イ・長期欠席の生徒の数は 7 名。（△） ウ・進級卒業できなかった者 1 名（◎） エ・支援教育コーディネーター研修 （基礎）3 回（応用）3 回 参加（◎）</p> <p>(3) ア・土曜日の TOEFL 講座は参加者は 56 名であったが、少人数で 60 回実施し、受講者数延べ 459 名であった。（○） イ・京大が今年度新たに実施した「京大サイエンスフェスティバル」に本校が大阪代表で参加した。（◎） ウ・生徒 4 名教員 2 名が台湾大学、淡江大学の訪問を含む海外セミナーを実施。（◎） エ・近畿サイエンスデイは大阪工業大学梅田キャンパスで実施。実施時期の関係で発表校は 5 校（金沢泉丘、藤島、膳所、神戸、天王寺）（△） オ・海外の高校との交流（◎） ・アメリカのヒンガム高校から生徒 40 名教員 5 名来校 ・オーストラリアのホーランドパーク高校へ生徒 5 名短期留学。 ・台湾台北市立第一女子高級中学と国立武陵高級中学へ生徒 4 名教員 2 名訪問。 ・韓国の慶南女子高校は相手の都合で中止。 カ・MOOCs の授業 8 回延べ 26 人参加。（○） キ・科学オリンピック出場者数の計 121 名（○） 物理 化学 生物 情報 数学 予選 18 45 40 1 17 本選（受賞）0 2 2 1 1</p>
<p>3 中堅、若手教員の資質の向上</p>	<p>・若手教員の育成</p>	<p>○ 桃陰塾（若手教員の勉強会）→ 首席を世話役として月 1 回自主的勉強会（先輩教員の講演会、ワークショップなど）の実施年間通して、若手教員間での授業研究を促進する。</p> <p>○ 教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。</p> <p>○ 本校の文武両道の理解推進。天高育成プログラムの理解の増進。</p>	<p>ア・新採用の教員については相互の授業見学を 1 人 5 回以上行う。</p> <p>イ・新規採用者全員に公開研究授業と研究協議会を 1 回以上実施させる。</p> <p>ウ・学校行事に対する意識の改善。学校教育自己診断の結果、昨年度のマイナス項目を改善する。</p>	<p>ア・新採用の教員については、相互の授業見学を 1 人 30.0 回実施した。（○） イ・新規採用者全員が公開研究授業と研究協議会を 1 回実施した。（○） ウ・学校教育自己診断の結果、全 48 項目のうち、36 項目において肯定的な回答が増加した。（◎）</p>